

山の住民が全国からファンを呼ぶ坂道マラソン本番裏

○三木歩、小林未佳、和田晃平、鈴木直美、池本（田中）有里、山本耕司（四国大学）

1. はじめに

徳島県勝浦町の坂本地区は総世帯数 196 軒の小さな集落でありながら、昨年秋、全国から 350 人のランナーを迎え、住民総出で運営する第 1 回目マラソン大会を成功させた。そして今年参加ランナー規模を 500 人に拡大して実施する。ほとんどが高齢者の住民が、大会当日までの数々の課題を解決しながら前進していく。筆者らはその力の原点を記録し、発信する役割を担い、大会の準備段階である全体集会などを中心に、先に報告した¹⁾。そして、今回は実際の本番を経験し、そのとき住民がどう協力し、関係者や自治体、メディアなどをどう巻き込んで大会を導いたのかについて報告する。

2. 調査概要

坂本地区の住民は、ほとんどが高齢者のみかん農家であり、11 月後半から 12 月にかけては収穫で最も忙しい時期にあたる。それにもかかわらず、「みかんで最も美しく彩られた坂本地区をたくさんの人に見てもらいたい。」という一心で、マラソンを開催し、地域を盛り上げようと生き生きしている。

この秋 11 月 25 日の 2 回目の本番は、規模も 150% に拡大しての実施であり、不安も課題も多い。大会に向けてウェブページを開設し、臨時駐車場の確保やシャトルバスの運行計画、交通遮断の計画と警察や消防などとの連携を進めながら、一方で参加者への対応や情報発信の方法をどうするか、対応すべき課題は山積している。

筆者らは、その様子を全国にリアルタイムに届けるライブ中継を準備し、現場テストを行った。また、住民の有志である高齢者の方々が、学生 20 余名を 7 台の軽自動車に乗せて狭い坂道コースのロケハン案内をいただいた。コースとしている道は、軽車両でも道幅いっぱいの狭さで、くねくね曲がった急な坂ばかりの難所の連続である。そのコースは初級から上級までの 4 つあり、初級コースは「しよいで『すだち』コース」と名付けた 1Km の小学生対象で、標高差は 23 メートルである。小中学生対象には 2.9Km・標高差 79 メートルで、「いっきょい『ゆこう』コース」と名付けている。さらには高校生以上を対象とする「えらいじょ『ゆず』コース」が 6Km で、標高差は 141 メートルである。そして、最も長いコースが 9.8Km ある「がいな『貯蔵みかん』コース」で、標高差は 224 メートルである。このような苦しい坂道を好んで走り抜け、坂本にまた走り来たい、と思わせる運営はどう行ったのか、詳細は講演の際に述べる。



図1 マラソンコース最初の上り坂のロケハン



図2 マラソンコース 5km 辺りの中継点ロケハン

【参考文献】

- 1) 小林未佳・三木歩・和田晃平・池本有里・山本耕司：「みかんの里を駆ける元気の繋がり」, 地域活性学会第 10 回研究大会論文集, pp.10-13, 2018.
- 2) さかもと坂道マラソン HP, <http://saka-mara.run/>